

バイオミメティクス研究センター活動報告

バイオミメティクス研究センター

2017 年度も昨年度に引き続き、北海道大学総合博物館が主催し、科学技術研究費新学術領域「生物規範工学（領域代表：下村政嗣）」が共催する「バイオミメティクス市民セミナー」に高分子学会北海道支部とともに協賛し毎月のセミナーを開催した。会場は北海道大学総合博物館 1 階、時間は午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分である。詳細は以下の URL でも参照可能である。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/publicevents/12358/>

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/publicevents/13044/>

（ただし、本紀要発行日以降分については予定である）

- (1) セミナー64：2017 年 4 月 1 日（土）
「雪虫のなぞ：複雑な生活史と形の変化」
秋元信一（北海道大学大学院農学研究院教授）
- (2) セミナー65：2017 年 5 月 6 日（土）
「透明セルロースナノペーパーと次世代光技術」
谷尾宣久（千歳科学技術大学理工学部教授）
- (3) セミナー66：2017 年 6 月 3 日（土）
「甲虫に見られる構造色多型の遺伝と害虫防除」
熊野了州（帯広畜産大学畜産生命科学研究部門准教授）
- (4) セミナー67：2017 年 7 月 1 日（土）
「視覚センシングとロボット制御の高度化」
小田尚樹（千歳科学技術大学理工学部教授）
- (5) セミナー68：2017 年 8 月 5 日（土）
「農作物の表面構造で害虫の被害が変わる？」
高篠賢二（農業・食品産業技術総合研究機構上級研究員）
- (6) セミナー69：2017 年 9 月 2 日（土）
「昆虫や植物の濡れを物理と化学から考える」
眞山博幸（旭川医科大学医学部化学教室准教授）

なお、後期からは、バイオミメティクス市民セミナー・対話篇として、2 名の講師を迎え、会場との交流を深めることとした。その趣旨を以下に転載する。

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

生物の進化適応の結果である生物多様性は持続可能性の証拠であり、その背景にある”生物の生き残り戦略”を明らかにし、人間活動に技術移転することによって、持続可能な社会を可能とするパラダイムシフトがもたらされます。博物館は、自然史のみならず、科学史や芸術、民俗を含む人間活動の歴史に関わる資料を収集・保管、展示することで、それらを広く社会に供する場であるとともに、社会と科学の交流を可能とする最適にして不可欠な”社会装置”です。そこで、2017 年度後期から、新たな試みとして、”バイオミメティクス市民セミナー：対話篇”をスタートすることにいたしました。資源、エネルギー、環境など、現代社会が抱える喫緊の問題は様々な課題を抱えており、科学技術だけで解決することは不可能です。博物館における対話を通して、生物学と工学の異分野交流、社会と科学の交流を図ることで、”自然と調和した持続可能な人間活動”を考える場にいたします。

- (7) セミナー70：2017 年 10 月 7 日（土）
“長〜い生き物”の話

柁原宏（北海道大学大学院理学研究院准教授）

黒田茂（北海道大学電子科学研究所助教）

(8) セミナー71：2017年11月4日（土）

サメとアザラシ、生態と動態

小林万里（東京農業大学生物産業学部）

宮崎真理子（株式会社日立製作所）

(9) セミナー72：2017年12月2日（土）

黒が大事！ イカスミと鳥の構造色

松浦俊彦（北海道教育大学函館校教授）

桑折道済（千葉大学工学研究院准教授）

(10) セミナー73：2018年1月6日（土）

形は機能？植物プランクトンと無生物の形

堀口健雄（北海道大学理学研究科）

三友秀之（北海道大学電子科学研究所）

(11) セミナー74：2018年2月3日（土）

働かないアリと粘菌生活

長谷川英輔（北海道大学農学研究科）

高木清二（公立ほこだて未来大学）

(12) セミナー75：2018年3月3日（土）

鳥と魚、したたかな求愛

相馬雅代（北海道大学理学研究科）

山家秀信（東京農業大学生物産業学部）